



片柳中学校だより

片柳

第4号 令和7年7月1日発行

さいたま市立片柳中学校

さいたま市見沼区大字御蔵551

TEL 048-683-3173

<学校教育目標> 夢をはぐくむ学校 ○自ら学ぶ生徒 ○心豊かな生徒 ○心身を鍛える生徒

夏の始まり 暑さの中で考える

校長 佐久間 貴宏

7月を迎え、日差しが強く、気温もぐんぐんと上がってきました。最近では「猛暑日」が当たり前のようになり、熱中症の危険も高まっています。特に、部活動や登下校など、屋外に出る場面においては水分補給や帽子の着用するなど、暑さ対策を欠かさないようにしてください。

近年のこの暑さは、単なる「夏の暑さ」ではなく、気候変動の影響とも言われています。右の図は、「国立研究開発法人国立環境研究所」のホームページから引用したもので、過去100年間の気温の変化を示しています。日本では、この100年で平均気温が約1.4℃も上昇していることがわかります。

気温の上昇は、農作物の育ち方の変化や動物の生息地の移動など、自然界に大きな影響を与えます。台風の大型化や集中豪雨の増加など、異常気象を引き起こす原因にもなっており、私たちの安全や暮らしにも深く関わっています。

本当にこのままで地球は大丈夫なのでしょうか？ 私たちにできることは何があるのでしょうか？ たとえ大きなことはできなくても、日々の生活の中で少しずつ意識を変えていくことが大切です。将来の世代も豊かな生活を送ることができるようにするために、身近なところから取り組む『think globally, act locally (地球規模で考え、足元から行動する)』の考え方をもつことが非常に重要です。例えば、エアコンの設定温度を工夫し冷やしすぎないようにしたり、扇風機を併用したり、カーテンで直射日光を遮ったり、できることから始めてみませんか。ただし、熱中症対策も忘れてはいけません。省エネだけを優先し健康被害につながることはないよう、バランスを大切にしてください。

SDGs (持続可能な開発目標) は、国連が定めた17の目標で、2030年までにによりよい世界をつくるための指針です。環境に関する目標には、次のようなものがあります。

目標13 気候変動に具体的な対策を

目標12 つくる責任 つかう責任



近年の災害級の暑さの原因は、特定のなものではなく、複数の要因が複雑に絡み合っているとされています。皆さんが今から環境について考え、行動することは、未来の社会をよりよくする第一歩です。できることから、始めてみませんか？



図2 日本の年平均気温と1991-2020年平均値との差

気象庁「日本の年平均気温」の「日本の年平均気温偏差の経年変化(1898~2024年)」を基に加工